

他者と協働しながら、生活や社会の中の 音や音楽の働きについての意識を深める音楽科の学習

I 音楽科研究の方向性

1 主題設定の理由

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編」では、「音楽科の改訂の趣旨及び要点」として、音楽科の成果と課題が、次のように示されています（下線は筆者）。

- 音楽科、芸術科（音楽）においては、音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図を持って表現したり味わって聴いたりする力を育成すること、音楽と生活との関わりに関心を持って、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度を育むこと等に重点を置いて、その充実を図ってきたところである。
- 一方で、感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや価値等を考えたりしていくこと、我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、よさを一層味わえるようにしていくこと、生活や社会における音や音楽の働き、音楽文化についての関心や理解を深めていくことについては、更なる充実が求められるところである。

これまでの本校音楽科の研究は、「音楽を形づくっている要素の働きを聴き取ったり感じ取ったりする活動を通して、自らの感じ方を広げ、深める音楽科の学習」をテーマに進めてきました。音楽を形づくっている要素の働きを聴き取ったり感じ取ったりすることで、感性を働かせ、音楽のよさや美しさ、面白さを味わうことができました。また、友達と音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図って交流することを通して気付いたことを共有したり、共感したりする姿が見られました。学習アンケートからも、友達と協働して取り組むことの楽しさや大切さを実感している児童が多くいることが分かりました。一方で、第6学年児童のアンケート結果から、音楽の学習で学んだことと、学校生活や日常生活とが関連付いていることを実感できていない児童が半数程度いたことから、音や音楽と自分との関わりを築くことに課題があることが明らかになりました。この結果は、全国の第6学年児童にも見られる傾向です。

そこで、音や音楽と自分との関わりを築くためには、生活や社会の中の音や音楽の働きについて意識を深める学習の充実を図ることが、より一層必要であると感じ、研究主題を「他者と協働しながら、生活や社会の中の音や音楽の働きについての意識を深める音楽科の学習」と設定しました。

「他者と協働」とは、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図りながら、友達と音楽表現をしたり音楽を聴いたりすることです。このことは、本校の児童の実態を踏まえた上でも、集団での音楽活動が中心となる音楽科の学びの特質からも、欠かせないと考えました。また、「生活や社会の中の音や音楽の働きについての意識を深める」とは、生活や社会の中の音や音楽の働きの視点から、児童が学んでいることと、学校生活や日常生活との関連を自覚することです。

2 目指す「新たな価値を創り出す」児童の姿

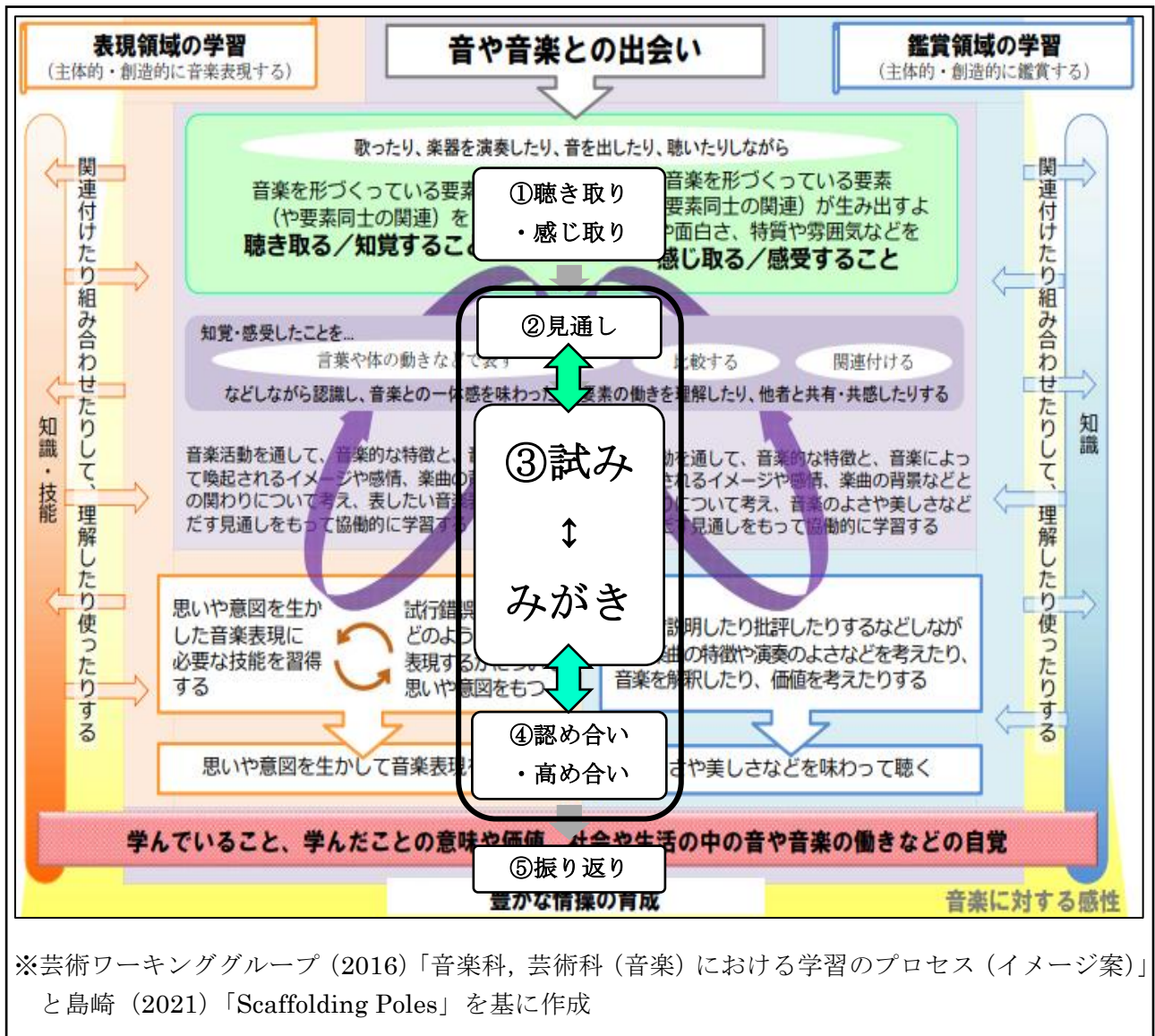
本校音楽科における「子供が創り出す『価値』」を、次のように押さえました。

①自ら問いをもって、探究することの価値	知識を得たり生かしたりしながら、どのように表すかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだしたりする。
②人と関わり、協働して探究することの価値	友達と音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図って交流し、共有したり共感したりすることの大切さを実感する。
③探究する中で得た内容知や方法知の価値	音楽を形づくっている要素などの働きについて理解したことを表現や鑑賞などに生かし、生活や社会の中の音や音楽の働きについての意識を深める。

II 研究内容の具体

1 「探究型の学び」のイメージ

本校音楽科では、児童が他者と協働しながら、生活や社会の中の音や音楽の働きについての意識を深めるために展開する「探究型の学び」のイメージを、次のように考えました。なお、この学びのイメージは、主に1題材（1教材）を通して実施される一連のサイクルです。



聴き取ったり感じ取ったりしたこと (①) について、他者と共有したり共感したりしながら、自分たちで目標を定め、学習の見通し (②) をもちます。そして、失敗を恐れずに、自分たちの様々な表現や考えを試みたり、繰り返し見直し、更に試行錯誤を重ねることで、磨きをかけたりしていきます (③)。その過程を通して、互いの表現や考えを認め合い、高め合いながら、音楽表現をしたり、音楽を味わって聴いたりします (④)。最後に振り返り (⑤) を行い、どんなことを学んだのか、また、学んだことは自分の生活や社会とどのような関連があるのかについて考えることで、生活や社会の中の音や音楽の働きについての意識を深めます。

2 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業デザイン

「個別最適な学び」は、「指導の個別化」と「学習の個性化」に整理されています。音楽科においても、児童一人一人の個性や興味・関心を生かした楽しい音楽活動の展開が求められています。そこで、本校音楽科における「個別最適な学び」を、次のように押さえました。

◆音楽科における「個別最適な学び」

手段や方法などを選択したり考えたりすることを通して、思いや意図をもって表現したり、曲や演奏のよさを見いだして聴いたりする学び。

児童が手段や方法などを選択できるように、様々な学び方を保障する学習活動を展開することで、児童一人一人にとっての「個別最適な学び」が充実すると考えました。

「協働的な学び」については、多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重することなどの充実が求められています。音楽科においても、「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関する全学年の目標において、「協働して音楽活動をする楽しさ」について示されています。そこで、本校音楽科における「協働的な学び」を、次のように押さえました。

◆音楽科における「協働的な学び」

音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図りながら、友達などと音楽表現をしたり音楽を味わって聴いたりすることを通して、音楽の構造について共有したり、感じ取ったことに共感したりする学び。

友達をはじめとした他者と音や音楽を通して関わる中で、多様な表現や考えに触れることが、児童一人一人にとっての「協働的な学び」が充実すると考えました。

＜思いや意図の言語化（可視化）・明確化＞

楽譜上のどの部分をどう表現したいのか、思いや意図は児童一人一人異なるものです。そこで、児童が思いや意図をもって表現したい部分を選び、音楽を形づくっている要素を基に、自分なりの表現の工夫を記入しました。そうすることで、自分の思いや意図を言語化（可視化）し、明確になりました。さらに、聴き手と楽譜を共有することで、自分の思いや意図が聴き手に伝わりやすくなると思われました。

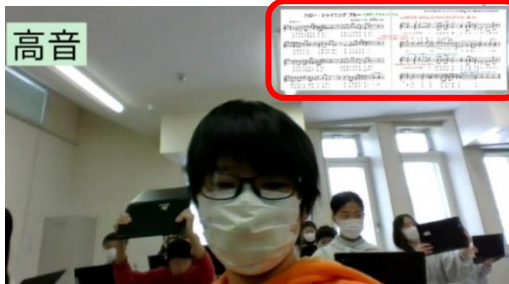
○音楽を形づくっている要素を基に、自分の思いや考えを楽譜に書き込み、表現する歌唱の学習

【実践例：5年「声のひびき合い」（教材名「ハロー・シャイニング ブルー」）】

題材を貫く学習課題を「優しく明るい声で、なめらかに、それぞれのパートで合わせて歌おう。」と設定し、歌唱の学習に取り組む（思考・判断のよりどころとなる音楽を形づくっている要素：音色、旋律、音楽の縦と横との関係）。題材の最後に、自分なりの表現の工夫を記入し、歌唱動画を撮影する。

右：動画に貼り付けた楽譜

下：完成動画



この部分の高く上がるところを切れないように声を伸ばして歌いたい

シャイニングブルー - みみをすま したら - オ - ました

き こえる - メロディー -

ここをさっさと途切れないようしっかり伸ばしていきたい

シャイニングブルー - {そらがよん ている} よ - んでい

{うみがよん ている} -

低音はすぐ追いかけて入るから気をつける

この曲の最後は

み ん な な か - ま さ -

る い つ も な か - ま さ -

《曲や演奏のよさを見いだすための聴き方の選択と役割分担を生み出す音楽の構造の共有》

児童が曲や演奏のよさを見いだして聴き、鑑賞の学習を深めるためには、音楽を聴いて気付いたことや感じ取ったことなどを表出し、他者と交流する必要があります。そこで、児童は音楽を聴きながら、体の動きや絵、図など、自分が表出したい方法（聴き方）を選択します。そして、教師は曲の中に存在する複数の音色や旋律、音楽の仕組みの諸要素の表れなどを児童と共有します。そうすることで、表出する上で役割分担をする必要があるという意識を児童に生み出し、友達と協働して曲や演奏のよさを見いだすことができます。なお、表出方法（聴き方）は、曲（教材）や児童の実態によって、旋律の流れに合わせて上下や左右に手を動かしたり、旋律の流れを線でかいたり、曲想や音楽の構造の変化に合わせて紙芝居のように絵や簡単な言葉で表したりする方法があります。

○聴き取ったことや感じ取ったことを協働して視覚的に表しながら聴く鑑賞の学習

【実践例：5年「ききどころを見つけて」（教材名「つるぎのまい」）】

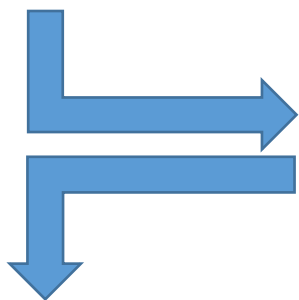
- ①曲を聴き、聴き取ったことや感じ取ったことを全体で自由に交流する。
- ②交流したことを基に、どうしたら「変化」を表すことができるかという問いを投げ掛ける。
※「曲の感じが途中で『変化』した」という内容に焦点化する。
- ③題材を貫く学習課題を「せんりつの変化やよびかけとこたえを目に見えるように表し、曲のよさや面白さを考えよう。」と設定し、鑑賞の学習に取り組む（思考・判断のよりどころとなる音楽を形づくっている要素：旋律、変化、呼びかけとこたえ）。
- ④鑑賞時に、旋律（音色）が変化したと思ったときや、合いの手（こたえ）の音に気付いたときに手を挙げる活動を取り入れ、音楽の構造の変化を視覚的に児童と共有する。
- ⑤共有したことから、一人で取り組むよりも、友達と協働した方が曲の変化を表しやすいということに気付き、児童一人一人が選択した表し方（聴き方）によるグループで学習に取り組む。

【表出方法（聴き方）の選択】

- ①体の動き
 - ②色や形（紙）
 - ③色や形（端末）
- ※表出方法は児童と考える。

【曲の感じの変化を友達と役割分担して表す】

「①体の動き」を選択した児童のグループが、主旋律（中央の児童）と合いの手（周囲の児童）で役割を分担し、動きを変えて、曲想や音楽の構造の変化を表す。



【友達と協働して表して（聴いて）感じたことの振り返り（下線は筆者）】

※次時には、各グループの聴き方を題材の最後に学級全体で共有（発表）する時間を設ける。

① 体を動かして ② 色や形を紙にかいて ③ 色や形をロイノートのカードで

表現したことによって、その曲の特ちょうが大きく変わることがわかりました。始め、中、終わりが合の手では同じをして、始めはさざみにうごいて中はゆっくりうごいて、最後はまたさざみにうごくようにしました。最後の最後は、みんなが同じようなポーズで終わるようにしようと思います。

《友達の表現や考えを共有，共感できる場の設定》

友達の多様な表現や考えに触れることによって，自分の音楽表現の学習は深まり，学びが豊かになります。そこで，音楽づくりの学習において，友達の表現や考えを共有し，自分の表現や考えと比較する場を設定しました。その際，教師は同じものや似ているもの，異なるものがあることを全体の場で価値付けました。そうすることで，友達の表現や考えを生かして，自分の表現や考えを更に高めたり広げたりすることができると考えました。

○自分の表現や考えを基に，友達の表現や考えを生かして作品を仕上げる音楽づくりの学習

[実践例：3年「いろいろな声で表現して遊ぼう」]

児童が自分の音楽をよりよいものにするために，ロイロノート・スクール（以下，ロイロノート）のテキストカードを使って，友達の音楽と自分の音楽を合わせて音楽をつくる学習。

なお，各カードには児童の「ヤッホー」の声が録音されており，視覚（カード）と聴覚（録音された声）で確認しながら友達のカードと自分のカードを比較する。

	A 児の作品	B 児の作品
自分一人で作った音楽（作品）		
自分と友達のカードを合わせて作った音楽（作品）	<p>「こわこわヤッホー」 A 児 作曲</p> <p>君の2枚目のテキストがぼやぼやして怖い感じだから君のカードをつなげました。僕のカードも1枚目は最初が大きくてあとが小さいから怖い感じだから題名も「こわこわやっほー」にしました。</p> <p>※下線は筆者</p>	<p>「ヤッホーカードの歌」 B 児 作曲</p> <p>カードをつなげるときにくふうしたこと 最初に、呼びかけが強いからやってこたえが強いにするとやまびこみたかったから。</p> <p>※下線は筆者</p>

A児は，呼びかけとこたえが「強→弱」となるような強弱の工夫をして，怖い雰囲気音楽をつくった。そこで，自分と同じように工夫してつくった友達の作品をつなげることによって怖さが増し，自分の音楽がより深いものになった。

B児は当初，「ほー」の伸ばし方は異なるが，声の強さは変化させずに音楽をつくった（呼びかけもこたえも強めの声）。その後，友達の作品と比較する中で，自分とは異なる弱めの声で作られているものを見つけた。そこで，自分のカードと友達のカードを交互につなげることで，「強→弱→強→弱」となり，やまびこの反復のような音楽をつくることができた。

3 子供が新たな価値を創り出すための振り返りの工夫

児童が音楽科における新たな価値を創り出すためには、音楽を形づくっている要素の働きが生み出すよさなどを感じ取ることを支えとして、自ら音や音楽を捉えたことについて自覚したり、友達と共有したり共感したりすることが必要です。

そこで、1単位時間や題材の終末において、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉えたことを基に、音や音楽から喚起される自己のイメージや感情との関わりについて振り返るようにしました。または、音や音楽と私たちの生活や文化との関わりについて考える時間を設けました。

そうすることで、音楽のよさなどを改めて実感したり、学んだことの意味や価値を見いだしたりすることができ、生活や社会の中の音や音楽の働きについての意識が深まると考えました。

なお、振り返った内容はロイロノートを活用し、友達と共有したり共感したりすることを通して、自分の感じ方や考え方を深めていけるようにしました。

○音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉えたことについて、生活や社会と関連させている振り返り

[実践例：6年「私たちの国の音楽」(教材名「春の海」)]

題材の導入時に、この曲がなぜ日本のお正月によく流れるかを児童と話題にし、振り返りの際に考える。その際、児童は学習してきたこと(音楽を形づくっている要素の働きが生み出すよさなど)を基にして考える。また、ロイロノートの「提出箱」に児童が振り返りのカードを提出し、友達と振り返りを共有することで、音楽を形づくっている要素の働きについて、他の友達がどのように聴き取ったり感じ取ったりしたのかを知ることができる。

・②「春の海」は、どうして日本のお正月によく耳にするのでしょうか。学習してきたことを基にして考えましょう。

僕は、「春の海」が日本のお正月によく耳にする理由として思うことが3つあります。

1つめは、この曲のタイトルである「春の海」の「春」が、1月あたりの時期を表しているからだと思います。お正月は「新春」とも言うので、その「新春」を「春の海」という曲で表しているのだと思います。

2つめは、日本のお正月を日本らしい楽器で表したいからだと思います。この曲の演奏に使われることと尺八は、日本らしい楽器で、日本の曲によく使われます。その楽器が使われている曲を日本のお正月に使うことで、世界のどこの国でもある「お正月」という文化を日本らしくできます。

3つめは、この曲の冒頭の旋律が、覚えやすく、わかりやすいからだと思います。この曲の冒頭の旋律は、音が少しずつ変わっていかないので、とても単純で、すぐに覚えられます。そうすると、少し聴いただけで何の曲かわかるので、気分も雰囲気もお正月になります。

僕は、この3つの理由が、日本のお正月によく耳にする秘密だと思います。

(C児の振り返りより)

C児はこの曲が日本の楽器である箏(そう/こと)と尺八を使って演奏されていることに注目し、箏と尺八の音色を聴くことで、新年を祝う際に日本らしさを感じることができるということを理由に挙げている。

また、曲の冒頭の箏の旋律に注目し、同じようなフレーズを反復させた旋律にすることで、曲を認識しやすいと感じたことから、この曲が私たちの生活(日本のお正月)に意味あるものとして存在していることを理解している。

Ⅲ 研究実践

3年生実践 『チャチャチャのリズムで遊ぼう』

実践のテーマ：友達と協働しながら、音楽を形づくっている要素とその働きを基に、表したい音楽をつくるための思いや考えを深める学習

1 研究授業のねらい

本題材では、音楽を形づくっている要素として、主に、リズム、音の重なり、反復、変化が思考・判断のよりどころとなるような構成にしました。第1時では、「まほうのチャチャチャ」をラテンのリズムや楽器の音色などのよさや面白さを考えながら鑑賞したり、ラテンのリズムを楽器で試したりする活動に取り組みました。ラテンのリズムなどに親しんだ後は、第2時（本時）から第3時にかけて、音楽づくりの学習に取り組みました。児童自身の思いを基に、リズムや音色の重ね方を考えたり、反復や変化などを用いたりして、友達と協働しながら音楽をつくりました。

2 題材の指導計画（3時間扱い）

時	○学習内容 ・ 学習活動	評価規準・記録に残す場面（評価方法）	「探究型の学び」のイメージ	
			題材における児童の姿	段階
①	○チャチャチャの音楽を聴いたり楽器でリズムを試したりして、チャチャチャ（ラテン）のリズムの特徴を、音楽のよさや面白さと関わらせて気付く。 ・「まほうのチャチャチャ」（鑑賞用）を聴き、チャチャチャの音楽について、聴き取ったことと感じ取ったことを交流する。 ・「まほうのチャチャチャ」（歌唱用）を聴き、どうしたら鑑賞用の音楽のように楽しくなるか考える。		① 聴き取ったことと感じ取ったことについて、友達と共有したり、共感したりしている。	① 聴き取り・感じ取り
	リズムや音の重なりをくふうして、「チャチャチャの音楽」をつくらう。	① 知（発言、記述）	② リズム、音の重なり、反復、変化などについて友達と共有したり共感したりしたことを基に、学習の見通しを立てている。 ③ リズム、音の重なり、反復、変化などについて、友達と様々な表現や考えを試みたり、繰り返して見直し、試行錯誤しながら磨きをかけたりしている。	② 見通し ③ 試み↑みがき
②（本時）	○友達と「チャチャチャの音楽」をつくるために、自分なりの思いや考えをもつ。 ・前時の学習を想起する。 ・自分がイメージした「チャチャチャの音楽」をつくるために、友達と協働しながら、様々なリズムや楽器を試す。また、音楽の仕組み（反復や変化）の工夫についても考える。 ・学習の振り返りをする。 ・次時の学習を見通す。	① 思（観察、記述）	④ 友達と互いの様々な表現や考えを認め合い、高め合いながら、音楽をつくりたり、発表を見たりしている。 ⑤ チャチャチャの音楽を、私たちの生活の中でどのように生かすことができるかについて、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉えたことを基にして考えている。	④ 認め合い・高め合い ⑤ 振り返り
③	○友達と「チャチャチャの音楽（音楽づくり）」を仕上げ、発表する。 ・前時の学習の続きとして、友達とチャチャチャの音楽をつくる。 ・完成したチャチャチャの音楽をグループごとに発表し、聴き合う。 ・学習（題材全体）の振り返りをする。	② 技（発言、記述）		

3 本時の学習

(1) 本時の目標

リズム、音の重なり、反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。

(2) 本時の展開（3時間扱いの2時間目）

学習内容と主な学習活動	研究とのかかわり・留意点
<p>1 歌で「始めます」の挨拶をする。(1分)</p> <p>2 前時の学習を想起し、本時の学習の課題を確認する。(3分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャチャチャは様々なリズムや音が重なっているから楽しい音楽だったよ。 ・歌の「まほうのチャチャチャ」を、さらに楽しい音楽にするにはどうしたらよいか。 ・友達とリズムや音を重ねながらつくりたいね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師はピアノで音取りをする。 ・授業内で使用することがある「音楽のもと」という言葉は、「音楽を形づくっている要素」と同義である。
<p>リズムや音の重なりをくふうして、友達と「チャチャチャの音楽」をつくろう。</p>	
<p>3 一緒に音楽をつくる友達を見付け、友達と「チャチャチャの音楽」をつくるための考えを出し合う。(18分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の自他の振り返りを基に、一緒に音楽をつくる友達を見付ける。 ・前時の自分の振り返りを基に、使いたいリズムや楽器を、友達と試しながら考える。 <p>4 リズムと音色の工夫の方法（反復と変化）について確認し、続きに取り組む。(13分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムは2小節の中で反復させてもよいし、1小節ごとに変化させても面白そうだね。 ・様々なリズムを組み合わせると、新しいリズムをつくれそうだよ。 ・リズムだけではなく、音色も変化させられそう。各楽器で音の出し方を工夫すると、いろいろな音の重なりが生み出されるよ。 	<p>◇「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業デザイン 研究視点2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習の振り返り（使いたいリズム、楽器の選択）を全体で共有する。それを基に、児童自身が、一緒に音楽をつくっていきたい友達を見付けて学習する。教師は必要に応じて一緒に学習する児童を見付ける手助けをする。また、リズムや音の重なり、音楽の仕組みを工夫してつくろうとしている児童の表現や考えを全体の場で共有する。 <p>【思①】 リズム、音の重なり、反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。 【努力を要する児童への働き掛け】 チャチャチャの音楽が楽しい理由の一つとして、様々なリズムや音の重なりがあるからということを想起させる。また、児童とともに試しながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考えるよう促す。</p>
<p>5 学習の振り返りをする。(8分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と「チャチャチャの音楽」をつくるために工夫したことを振り返る。 <p>6 次時の学習を見通す。(1分)</p>	<p>◇学習したことの意義や価値を実感させる評価の工夫 研究視点3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉えたことについて、児童自身のイメージや感情と関連させながら振り返る。
<p>7 歌で「終わります」の挨拶をする。(1分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師はピアノで音取りをする。

◇授業の見所・本時で願っている児童の姿

- ・(3・4の場面) リズム、音の重なり、反復、変化などについて、友達と様々な表現や考えを試みたり、繰り返して見直し、試行錯誤しながら磨きをかけていたりしている児童の姿。

4 授業の実際

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業デザイン

本時の学習では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業デザインとして、まず、児童一人一人が使いたいリズムや楽器、一緒に音楽をつくる友達を自ら選ぶことができる学習活動を保障しました。

リズムについては、教師が3種類のチャチャチャのリズムを提示して、児童自身が選択できるようにしました。なお、児童は提示されたリズムを基に、「④のリズム」として、自分で新たなリズムをつくり出してもよいこととしました。

楽器については、前時（題材の導入）に鑑賞用音源の「まほうのチャチャチャ」を聴いたとき、「楽しい音が出る打楽器が使われている。」という児童の声が多くあったため、日頃、授業で使用していたり、休み時間に遊んだりしている打楽器の中から選べるようにしました。

一緒に音楽をつくる友達については、教師がグルーピングをするのではなく、児童自身が自分の思いや考えを基に、決められるようにしました。そのために、教師は、前時の児童の振り返りの内容（チャチャチャの音楽をつくる時に現時点で使ってみたいリズムや楽器）について、ロイノートの提出箱内にあるデータや、紙に印刷したものを教室内に掲示して、児童が自由に見られる環境づくりをしました。そうすることで、「自分と違うリズムを選んでいるから。」「自分とは別の楽器を選んでいる、さらに、自分と同じように明るい音色が出る楽器を選んでいるから。」など、児童が根拠をもった上で、一緒に音楽をつくる友達を選ぶことができました。

なお、音楽をつくる上で、児童は、チャチャチャの音楽は様々な楽器（音色）やリズムを重ねている特徴があること、そして様々な楽器（音色）やリズムを重ねるためには、友達と一緒に音楽をつくる必要があることを感じていたため、友達と音楽をつくる学習に取り組むことになりました。

「まほうのチャチャチャ」ふりかえり（1回目） 【名前： <input type="text"/> 】
【使いたいリズム： ④ <input type="text"/> 】 <small>※ことば（「タンタタ」など）や音ぶ（「4分音ぶの形など）で下にかいてね。 タンタンタタタ</small>
【使いたい楽器】 ギロ
【リズムと楽器をえらんだ理由】 リズムは楽しいチャチャチャには細かいリズムが必要だから。がっきはギロは聞きやすい音で楽しさには聞きやすさも入るから。あとなんかこの曲の雰囲気的に合いそうだから。



【D児の前時の振り返り】

【友達の前時の振り返りを基に、友達と協働して音楽づくりに取り組む児童の姿】

子供が新たな価値を創り出すための振り返りの工夫

本時の学習では、児童が新たな価値を創り出すための振り返りの工夫として、児童が友達と協働しながら「チャチャチャの音楽」をつくる過程で、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉えたことについて、児童自身のイメージや感情と関連させて振り返るようにしました。そうすることで、題材の終末（次時）の振り返りにおいて、学んだことを生かし、チャチャチャの音楽と人々の生活や文化などの音楽の背景との関わりについて考えることができると考えました。

D児は、本時の学習で友達と協働しながら試行錯誤した結果、同じリズムを反復させるのではなく、変化させた方が、音楽が複雑になり、楽しい雰囲気になるという考えをもちました。

題材の終末では、自分の生活にどのように生かせようかという視点を加えて振り返りを行いました。D児は友達とリズムや音を重ねて音楽をつくった結果、チャチャチャの音楽のよさを、「音

がしっかりしていて、『どんどん』とした音色の打楽器を多用している。」ことから、「拍に合わせて（表現したり鑑賞したりすると、）ノリノリになり、元気になれる。」と振り返りました。

「まほうのチャチャチャ」ふりかえり（2回目）

【使うリズム： ④】
※ここは「タンタタ」などや音（「4分音の形など」）で下にかいてね。
 タアタタタタタタタタ

【使う楽器】
 ギロ

【友だちと音楽をつくるためにくふうしたこと
 →くふうの理由】

くふう（リズムの重なり・音色の重なりなど）	理由（どんな音楽をつくりたいから？）
ぼくのリズムを反復じゃないようにしてみた。	音が複雑になってもっと楽しくなると思ったから。あとはんぶくだとえんそうするときにあきるから。

【D児の本時の振り返り】

「まほうのチャチャチャ」ふりかえり（3回目）

チャチャチャの音楽の学習全体をふりかえって・・・

【かんせいの作品についてのせつ明】
※リズムや音の重ね方、リズムの反ぶくやへん化について（言葉や音符・休符で表す。）
 音楽のイメージに合わせて重ねたり重ねなかったりした。僕の楽器はギロで、反復していると飽きるののでできるだけ反復はしないでみました。

【チャチャチャの音楽のよさ】
 チャチャチャは、どんな音楽でしたか？
どのような気持ちになりましたか？ または、わたしたちの生活にどのように生かせるのですか？

なんか音がしっかりしているピアノやリコーダーなどは使わずに打楽器がおおくとどんどんした音が多い気がした。

よくにあわせてのりのりになる。聞くと元気が出る。

【D児の題材の終末（次時）の振り返り】

IV 1年次研究の成果と課題

1 研究の成果

- 児童一人一人が使いたいリズムや楽器、一緒に音楽をつくる友達を自ら選ぶことで、自分の思いや考えを大切にしながら学習することができました。
- 児童が友達と協働しながら試行錯誤（「試み」⇄「磨き」）する時間を確保することで、児童一人一人の思いや考えが深まりました。
- 音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉えたことを基に、自己のイメージや感情と関連させた振り返りを積み重ねました。そうすることで、題材の終末において、音楽と人々の生活や文化などの音楽の背景との関わりについて考えることができ、生活や社会の中で音楽がどのような働きをしているのかを意識することにつながりました。

2 今後の課題

- 児童が自分の思いや意図を大切にしながら、音楽の構造について共有したり、感じ取ったことを共感したりする「協働的な学び」の手立てについて、更に検証する必要があります。
- 児童が生活や社会の中の音や音楽の働きについての意識を深めるために、題材の導入や振り返りの場面における手立てについて、更に検証する必要があります。

V 引用・参考文献

- 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編 文部科学省 東洋館出版社 平成29年3月
- 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会 芸術ワーキンググループ（第5回）資料3-1, 2 平成28年2月
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校 音楽】 国立教育政策研究所教育課程研究センター 東洋館出版社 令和2年6月
- 初等教育資料 No. 1020 特集Ⅰ「音楽科における学習評価の課題と改善」 文部科学省 東洋館出版社 令和4年5月
- 初等教育資料 No. 1026 特集Ⅱ「音楽づくりの指導の充実」 文部科学省 東洋館出版社 令和4年11月
- 初等教育資料 No. 1027 特集Ⅰ「GIGAスクール構想のもとでの各教科等の指導①」 文部科学省 東洋館出版社 令和4年12月
- 新装版 カール・オルフの音楽教育 宮崎幸次 株式会社スタイルノート 平成25年3月
- 小学校音楽科の学習指導—生成の原理による授業デザイン— 小島律子 廣済堂あかつき株式会社 平成30年5月
- 「音楽」のユニバーサルデザイン 授業づくりをチェンジする15のポイント 増田謙太郎 明治図書 令和元年7月
- 教育音楽 小学版 第76巻第11号「子どものエージェンシーはどのように育成されるのか」 Scaffolding Poles 音楽之友社 令和3年11月